

令和 3 年 6 月 8 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02517

研究課題名(和文) 初期アメリカにおける奴隷叛乱事件 文学的・文化的想像力の創生と影響

研究課題名(英文) Slave Revolts and Conspiracies in Early America: Historical Imagination and Literary Representations

研究代表者

白川 恵子 (Shirakawa, Keiko)

同志社大学・文学部・教授

研究者番号：10388035

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本件研究は、一般的に、注目度が希薄である初期アメリカの奴隷叛乱/陰謀事件について広範な研究を行うものである。具体的には、1712年および1741年のニューヨークの奴隷叛乱陰謀放火事件、1739年のストノ奴隷反乱事件の概要・背景・原因・影響を明らかにした。これら3件の事件は密接に関連しており、その背景には、西インド諸島の欧列強植民地にて頻発する奴隷反乱事件の影響も見いだせる。加えて、本研究の最たる学術的成果は、こうした歴史的事件/現象が、のちの時代のアメリカ文学作品に、どのように表象されたのか比較対照し、分析した点にある。1741年の叛乱については、7作の文学作品を発掘し、概要紹介を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国のアメリカ文学研究領域において、1712年と1741年のニューヨークの奴隷叛乱事件、1739年のストノの事例について論じ、特に前者に関する複数の文学作品を見つけ出し、それら大衆小説を比較対照しながら紹介、分析した研究は存在しなかった。歴史的記述と文学的表象との間の相関を、未踏の事象によって示した点は、学術的に意義があると思われる。これらは単に250年以上まえの過去の事件であるだけでなく、こんにちのアメリカにおける制度的抑圧構造や歴史的事実の記録と文学の在り方に対しても多く示唆を与えており、その意味において社会的にも貢献している。

研究成果の概要(英文)：This research project conducts extensive research on the 1712 slave revolt and the 1741 slave conspiracy cases in NY city, as well as the 1739 Stono rebellion occurred in South Carolina, all of which are closely related. Also, this project explores the historical explanation/imagination of the revolt cases from the viewpoint of the governors' connection and slave community's network, as well as from the effect of the domination of European powers over slaves in the West Indies. What seems to be the most significant contribution of this project to American literature is that it finds and analyzes the hitherto obscured novels that represent such revolt/conspiracy cases: Mat Johnson's The Great Negro Plot; Mat Johnson's (story) John Constantine Hellblazer: Papa Midnite; Pete Hamill's Forever; Robert Mayer's 1741; Philip McFarland's Seasons of Fear; Jean Paradise's The Savage City; Ann Rinaldi's The Color of Fear.

研究分野：アメリカ文学・文化

キーワード：初期アメリカ 奴隷叛乱陰謀事件 ニューヨーク植民地 ストノ 奴隷制度 アンテペラム期 北米英領植民地 奴隷制文学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本件研究遂行者は、過去の基盤研究において、以下の点につき考察し、その成果を発表してきた。すなわち、アメリカ建国神話における英雄像の表象と独立時の負の遺産継承(奴隷制や先住民問題を含む)について、例えば、ジョージ・リッパード、メイソン・ロック・ウィームズ等の作品分析を行い、同時に、国璽生成過程とネイティブ・アメリカン殲滅政策、奴隷問題の棚上げ処理について考察してきた。その過程で常に意識したのは、体制や権力に対する民衆の抵抗意識であり、弱者として黙殺された女性や奴隷による自己喧伝の方法であり、あるいはまた、そのような体制転覆的発露を封じ込め、体制側へと取り込んでゆく国家政策との狭間に存在する大衆文学という表象空間の可能性であった。よって、本来、最たる体制転覆的行為であったはずの独立革命が、英雄的行為と認知されるためにどのような言語操作が必要であったのか、また一旦は封じ込めた人種問題の捩れが、のちにどのような政治的・文化的影響をもたらしたのかを探るべく、初期アメリカにおける民衆の体制転覆的事件とその文学作品による具体例を考察した。それは例えば、シェイズの叛乱(1786 - 87)を伝内部に取り込み揶揄するスティーヴン・パロウズの『回想録』と「乾草上の説教」(ともに1798)において、反逆者が修辭的権威者に変容する様であり、また白人モルモン教徒を妻とした元奴隷オカ・チュービーが、夫婦ともども先住民としてダブル・パッシングし大衆演劇のパフォーマーとして南部の人種規定を逃れていく狡猾さの発露でもあった。

本件研究においては、上記で措定した民衆叛乱という枠組みを、初期アメリカにおける奴隷叛乱に特化して考察する。そうすることで、かねてより分析対象としてきたアメリカにおける抵抗精神の顕現を、より精緻化できるし、また同時に、植民地時代から南北戦争以前期までの人種政策の捩れを俯瞰的かつ焦点化した視座から再構築できると考えるからである。今回の研究対象となるニューヨーク奴隷放火陰謀事件(1741)は、実際の叛乱が勃発する前に、副総督や判事といった為政者側から陰謀と見なされ、関係者と思しき奴隷たちが投獄・処刑された事件である。しばしば悪名高いセーラムの魔女狩りに比較される冤罪事件(と思しき)初期アメリカの大事だが、本件の背後には、1712年のニューヨーク奴隷叛乱事件(こちらは叛乱実行され、白人犠牲者がでた)や1739年のストノの奴隷叛乱事件、さらにはカリブ海植民地で頻発する奴隷叛乱が密接に関連しているため、歴史的にも、文化的にも、その敷衍的影響は大きい。しかも、奴隷叛乱といえば、一般的にはアンテベラム期の南部がその対象とされることが多いが、当然ながら、その起源は、初期アメリカの北部においてもあったがゆえに、注目すべき価値は大いにある。独立革命を挟んだ前後で、さらに奴隷貿易禁止法の前後で、こうした奴隷叛乱の陰謀に怯える為政者側が、それをどのように記録し、さらには、文学的に表象してきたのかを重点的に分析する。

一般的に、奴隷制下における奴隷の組織的暴力による抵抗については、奴隷制度の通史的説明に内包されるかたちの概要的な提示が多かった。一方で、個々の叛乱・陰謀事件の事例研究に関しては、こんにち修正主義史観に基づき、裁判記録や書簡などを詳細に検討するとともに、環大西洋的視座を導入したうえ事件を捉え直し、地域史や当時の経済状況等も考慮にいれて、叛乱概要を再構築する試みがなされてきている。初期アメリカの奴隷制度への関心は、アンテベラム期のそれに比べると希薄であるけれども、1741年の奴隷叛乱陰謀事件については、複数冊の研究書が既刊されている。しかしながら、それらの大方は、主に政治的、社会経済的関心、あるいは為政者側が残した文書記録の提示に終始しているために、文学的想像力への視座は乏しく、叛乱事件に触発されてのちに創作された文学作品の分析や文化的影響をも論じた包括的研究は、ア

アメリカにおいても見当たらない。また、我が国のアメリカ史、アメリカ文化・文学研究においては、そもそも初期アメリカ奴隷反乱事件をまとめて紹介する研究が希薄で、裁判記録等の歴史的資料や文学テクストを分析してみせる単著がない。

こうした研究動向、特に国内状況に対して一石を投じるのが本研究の意図するところである。まずは未遂に終わった陰謀や叛乱事件の全容を明示し、その上で、同時代および後の時代への社会的、文化的影響を考察し、さらには関連文学作品の分析を行う。実際これらの事件にまつわる文学テクストは予想以上に幅広く存在するため、埋もれていた作品を発掘し、アメリカ文学史上に再配置することにも貢献できると考えられる。文化的側面を含めた上での研究によって、独立革命を挟んだ初期アメリカの重層的かつ矛盾にみちた歴史背景と文学的想像力が示しうる可能性を見出すのが本研究の独自性となる。

2. 研究の目的

これまで文学・文化研究領域において、ほぼ注目されずにきた初期アメリカの奴隷制度とその文化的影響および文学表象について考察することを目的とする。特に、以下に示す3点のうち、アンテベラム期の南部のそれに比べて研究成果が少ない(1)、(2)について、本研究は、重点的に分析を試みる。

(1) ニューヨーク奴隷叛乱事件および陰謀事件(1712年および1741年の2件)

(2) ストノの叛乱事件、あるいはケイトーの陰謀(於: サウス・カロライナ邦、1739年)

(3) ナット・ターナーの叛乱以前の南部における奴隷反乱未遂事件(たとえば、プロッサーの叛乱(1800)、ヴィージーの叛乱(1822))

特に(1)と(2)は、時期的にも地域的にも、密接に関連しあっているため、各々の単体事象についてのみならず、相関関係について考慮して、研究を進める。さらに、(1)に関する文学作品は、複数存在し、文学的ジャンルも多岐にわたるので、歴史的説明と文学的表象の双方につき、考察する。米文学史上ほぼ黙殺されてきた歴史事象を扱った文学作品を発掘・紹介は、文学史への貢献にもなると期待する。

なお、本件研究のさらには先に見据えるのは、250年の奴隷制の歴史の中で、最大にして最悪と謳われたナット・ターナーの叛乱(1830)の抜本的見直しである。白川はターナーの叛乱についての研究動向を20年来追ってきたが、裁判記録の綿密なる再分析と徹底した書簡等洗い直しはもとより、制作進行中を含む映像化、過去の小説の発掘と新規創作、スミソニアン博物館展示や歴史トレイル構想等、昨今のターナーの文化復権は注目すべき活況を呈している。よって、本件申請研究は、植民時代から南北戦争以前期までの体制転覆的事案の枠組みを民衆対象から奴隷対象に絞りこみつつ、具体例の列挙の最終到達点としてターナーの叛乱を措定する途上の研究と位置付ける。そのため、ターナーに関して、新規文学・映像作品が上梓されたり、画期的な見解を示す批評が提示された際には、関連事項として、研究対象に含める。

3. 研究の方法

上記に示した(1)~(3)に関して、以下の作業と考察を行う。なお、書籍に関しては、特に重点的に考察する(1)~(2)に関連するものを記す。

A) 各々の奴隷反乱事件の背景と概要の提示。裁判記録や新聞報告、書簡の分析。アメリカ史上における各事件の意義とインパクトの整理。すなわち、複数の文書および書籍を読み、分析する。

具体的には、Peter Charles Hoffer, *Cry Freedom: The Great Stono River Slave Rebellion of 1739*; Jack Shuler, *Calling Out Liberty: The Stono Slave Rebellion and the Universal Struggle for Human Rights*; Mark Smith, ed, *Stono: Documenting and Interpreting a Southern Slave Revolt*; Peter H. Wood, *Black Majority: Negroes in Colonial South Carolina from 1670 through the Stono Rebellion*; Ira Berlin and Leslie M. Harris, eds. *Slavery in New York*; Thomas. J. Davis, *A Rumor of Revolt: The "Great Negro Plot" in Colonial New York*; Peter Charles Hoffer. *The Great New York Conspiracy of 1741: Slavery, Crime, and Colonial Law*; Daniel Horsmanden, *A Journal of the Proceedings*; Jill Lepore, *New York Burning: Liberty, Slavery, and Conspiracy in Eighteenth-Century Manhattan*; Peter Linebaugh and Marcus Rediker, *The Many-Headed Hydra: Sailors, Slaves, Commoners, and the Hidden History of the Revolutionary Atlantic*.

B) 事件の副産物（あるいは文化的成果）としての文学作品、詩歌、映像作品の検索と分析。具体的には、Mat Johnson, *The Great Negro Plot* (2007); Mat Johnson (story), Tony Akins & Dan Green Cover (art), *John Constantine Hellblazer: Papa Midnite* (2006); Pete Hamill, *Forever* (2003); Robert Mayer, *1741* (2015); Philip McFarland, *Seasons of Fear* (1984); Jean Paradise, *The Savage City* (1955); Ann Rinaldi, *The Color of Fear* (2005)といった作品群の分析。あわせてマンハッタンのアフリカ人墓地ナショナル・モニュメントにおける表象についての考察。

C) 歴史的説明と文学的表象を理解し、関連書籍・文書内容を把握した後、史実と創作との相関関係の理論的枠組みを模索する。この発想の背後にあるのは、植民地時代の奴隷証言の記録が完全ではない事件の場合、史実のナラトロジーそのものが創作的側面を持ち、想像と虚構を含む小説が教育的・啓蒙的歴史説明の文書として極めて有効となる実例である。従って、史実提示と虚構構築との境界の不鮮明さに、何らかの意義を見出す契機にもなると思われる。

4 . 研究成果

本件研究の具体的な成果は、以下に掲載する業績の通りである。その関連領域研究を含め、5年間に、単著1冊、共著書8冊、口頭発表(シンポジウム、海外口頭発表、依頼招聘発表含)8回、その他業績(書評)1本を発表した。また、現在、編集・印刷中の翻訳(共訳)が2冊ある。具体的には、以下の業績一覧の通りであるが、業績内容を簡単に記す。

1) 本件研究課題である1712年と1741年のニューヨーク奴隷反乱事件/放火陰謀事件については、複数の共著書において、18世紀半ばの北米およびカリブ海欧列強植民地奴隷制状況、マンハッタン為政者側の内的対立構造と異人種への心理的忌避感、奴隷共同体の情報伝達操作能力の関する考察を行った。その際に、ストの叛乱の影響とサウスカロライナ、ジョージア、フロリダの関連性を探った。

2) 1739年のストノの叛乱については、19世紀半ばの領土拡大(「マニフェスト・デスティニー」)の観点から、奴隷制問題解消弁としてのテキサス経由の植民発想とフロリダとの領土的関連性を共著書において論じた。

3) 1712年および1741年のニューヨーク奴隷叛乱事件の文学的表象については、マックファーランド論を上梓し、マット・ジョンソンのグラフィックノベル等について複数回の海外学会で口頭発表した。またすべての作品に関連し、作家紹介や作品概要はもとより、1991年にマンハッタンで発掘されたアフリカ人墓地(現在、ナショナル・モニュメントとなっている)の説明を含めた講演を行った。

4) その他、本件研究から派生した関連的考察や分析についても単著や共著書で成果を示した。たとえば、それは初期アメリカにおける民衆の体制叛乱的精神の発露に関する考察であり、1741年の陰謀における容疑者摘発パニックについて同等の構造を示すセーラムの魔女狩りに関する概要紹介であり、アンテベラム期に勃発したターナー反乱の映画表象の問題点についての考察である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 白川恵子	4. 巻 2018.7.13号
2. 論文標題 書評 峯真依子著『奴隷の文学誌 声と文字の相剋をたどる』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『週刊読書人』	6. 最初と最後の頁 4-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 白川恵子
2. 発表標題 「初期アメリカの奴隷叛乱事件と文学的想像力 ニューヨーク植民地の事例と大衆歴史小説」
3. 学会等名 名日本アメリカ文学会東京支部1月例会全体会（オンライン開催）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Keiko Shirakawa
2. 発表標題 "Papa Midnite: A Fictional Voodoo Agent of the 18th-Century New York Slave Insurrections"
3. 学会等名 The 2020 National Association of African American Studies & Affiliates Joint Conference in Dallas, TX. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白川恵子
2. 発表標題 「奴隷陰謀事件の大衆 / 教化 1955年から2015年までの作品群」
3. 学会等名 多民族学会第30回全国大会@大妻女子大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keiko Shirakawa
2. 発表標題 "Fictional Authenticity: Philip McFarland 's Seasons of Fear (1984)"
3. 学会等名 The 2019 National Association of African American Studies & Affiliates Joint Conference in Dallas, TX (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白川恵子
2. 発表標題 「マンハッタンの<魔女狩り> セイラムからニューヨークへ」(シンポジウム「陰画としての知のコミュニティー」)
3. 学会等名 日本ホーゾン協会 第36回全国大会シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白川恵子
2. 発表標題 「『国民の創生』再訪 ネイト・パーカーによるナット・ターナーの叛乱映画化とその顛末」
3. 学会等名 多民族研究学会(MESA) 第28回全国大会@東洋大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白川恵子
2. 発表標題 「北米英領植民地保全のために 奴隷叛乱・陰謀との闘い」
3. 学会等名 「マニフェスト・デスティニーの情動的効果と21世紀惑星的想像力」下河辺美知子科研(B)研究講演会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白川恵子
2. 発表標題 ストノ奴隷反乱の背景と情報伝達 / 操作の不 / 確実性
3. 学会等名 「知のコミュニティ」2016年夏季セミナー
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 (共著) 白川恵子「北米英領植民地保全と奴隷叛乱との闘い ストノの事例(1739)」	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 312 (247-272)
3. 書名 下河辺美知子編著『マニフェスト・デスティニーの時空間 環大陸的視座から見るアメリカの変容』	

1. 著者名 (共著) 白川恵子 <第一部・第二章>「アメリカの魔女たち」	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244 (16-23)
3. 書名) 巽孝之、宇沢美子編著『よくわかるアメリカ文化』	

1. 著者名 白川 恵子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 380
3. 書名 『抵抗者の物語 初期アメリカの国家形成と犯罪者の無意識』	

1. 著者名 (共著) 白川恵子「ナット・ターナーは再復活されうか? ネット・パーカーの『パース・オブ・ネイション』を巡る騒動とその顛末」	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 320 (269-294)
3. 書名 中山悟視編著『ヒッピー世代の先覚者たち 対抗文化とアメリカの伝統』	

1. 著者名 (共著) 白川恵子「不明瞭なテキスト フィリップ・マックファーランドの『恐怖の季節』にみる歴史小説的策略」	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 414 (341-351)
3. 書名 松本昇監修『エスニシティと物語り 複眼的文学論』	

1. 著者名 (共著) 白川恵子「マンハッタンの『魔女狩り』 ニューヨーク奴隷叛乱陰謀事件における情報解釈 共同体的誤謬」	4. 発行年 2019年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 360 (17-36)
3. 書名 倉橋洋子他編著『繋がり詩学 近代アメリカの知的独立と 知のコミュニティー の形成』	

1. 著者名 (共著) 白川恵子「ナンシー・ランドルフの幸福の追求 歴史/小説にみるジェファソン周辺の「幸福の館」」	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 386 (235-251)
3. 書名 貴志雅之編著『アメリカ文学における幸福の追求とその行方』	

1. 著者名 (共著) Keiko Shirakawa, "American Victim, Rebel, and Author-ity in Memoirs of Stephen Burroughs."	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Cambridge Scholors Publishing	5. 総ページ数 234 (93-105)
3. 書名 Eds. Leo Loveday and Emilia Parpala, Ways of Being in Literary and Cultural Spaces. bel, and Author-ity in Memoirs of Stephen Burroughs.")	

1. 著者名 (共著) 白川恵子「フィラデルフィアの幽霊屋敷 マット・ジョンソンの『ラヴィング・デイ』における混血アイデンティティの呪縛と解放」	4. 発行年 2016年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 478 (120-144)
3. 書名 東雅夫、下楠昌哉編『幻想と怪奇の英文学II 増殖進化編』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------